

宇部工業高等専門学校 中期目標

(前文)

○教育理念

宇部工業高等専門学校(以下、「本校」という。)では、以下の教育理念を掲げて、学生を教育する。

あらゆる社会活動を営む上で人間及び社会人としての倫理が全てに優先する。これを基本とし、本校は①温かい人間性と豊かな国際性を備え、②創造的目標に対して常に向上心をもって、③果敢に粘り強く努力を傾注できる人材を育成する。この本校の基本的教育理念は次の言葉で表現される。

Be human, be tough, and be challenge-seeking

教育理念を実現するための本校の教育方針は次の4点である。

1. 豊かな心と優れた感受性を持ち、学生として自主的な責任ある行動と規律正しい生活ができる人間に育てる。
2. 本科課程では、一般科目と専門科目を適切に配分した5年間の一貫教育を行い、幅広い知識を持つ人間に育てる。
3. 実技教育を重視し、理論に裏打ちされた創造力と豊かな国際性を身につけた実践的な能力ある人間に育てる。
4. 専攻科課程では、“もの”を新たに創造するために必要な情報収集・解析、企画・立案及び設計等に関する総合的能力を有する人間に育てる。

○養成すべき人材像

本校の教育理念に基づき、次の能力を持つ人材を養成する。

- ① 社会人として生活していく上で必要な豊かな教養と倫理を備えた人材を養成する。
- ② 専門科目を理解し、専門に関わる学問を発展させるための基礎となる数学、物理学、化学、情報処理等の確たる学力を備えた人材を養成する。
- ③ 国内のみならず、国際社会において自分の考えを表現できるよう十分な国語及び外国語（特に英語）に関する学力を備えた人材を養成する。
- ④ 専門に関わる確たる学力を備えた人材を養成する。

- ⑤ 課題探求能力を有し，設定した課題に向かって果敢に挑戦できる実践的人材を養成する。
- ⑥ 事象・現象を複眼的視野をもって総合的に捉え，目標とする“もの”を具体的にデザインし，創造できる人材を養成する。

I 中期目標期間

中期目標期間は，平成 21 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

II 業務の質の向上に関する事項

1 教育に関する目標

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ，技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え，さらに高い技術を理解させるといふ高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を通し，製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術，さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように，以下の観点に基づき本校の教育実施体制を整備する。

(1) 入学者の確保

高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特長や魅力について，小・中学生やその保護者，中学校教員，さらに広く社会における認識を高める広報活動を組織的に展開するとともに入試方法の見直しを行うことによって，本校の教育を受けるに十分な資質を持った入学者を確保する。

(2) 教育課程の編成等

産業構造の変化や技術の高度化，地域社会の要望等を踏まえて，本校の在り方を考えるとともに本科，専攻科の教育課程の一層の充実を図る。

また，高等教育機関としての専門教育の充実や技術者として必要とされる英語力を伸長させることはもとより，高等学校段階における教育改革の動向も踏まえた「確かな学力」の向上を図るべく，教育課程の不断の改善を促すための体制作りを推進する。

このほか，全国的な競技会への参加・協力などを通して課外活動の振興を図るとともに，「豊かな人間性」の涵

養を図るべく様々な体験活動の充実に努める。

（３）優れた教職員の確保

本校の学習・教育目標にかなう人材育成を目指すために、多様な背景を持つ教職員組織を確保する。また、学校全体の教育力を向上させるため、ファカルティ・ディベロップメント研修、人事交流等の教員の自己研修制度を充実させる。

（４）教育の質の向上及び改善のためのシステム

教員の教育研究の経験や能力を生かし、また、地元企業と連携した教育研究を活用した教育方法や教材などの開発を進めて、時代に即した技術者教育を行うとともに実践的中核技術者の養成を推進する。

本科においては、基礎学力とともに各専門分野における基礎知識と技術を身につけた人間性豊かな実践的・創造的技術者を養成する。

専攻科においては、本科で修得した学力・技術を基に、主専攻のより高度な知識及び能力と複合領域に対応出来る幅広い知識を身につけ、高い創造力を備えた実践的技術者を養成する。

「日本技術者教育認定機構(J A B E E)」によるプログラム認定によって教育水準を保証するとともに自己点検・評価、認証評価などにより教育の質を保証する。

技術科学大学、山口大学工学部等の理工系大学や他の高専との教員及び学生の交流活動等の有機的連携を推進する。

（５）学生支援・生活支援等

中学校卒業後の学生を受け入れ、５年間または７年間の長期にわたって教育すること、かつ、相当数の学生を学生寮に引き受け生活を送っていること等を特徴としてとらえ、学生のメンタルヘルスに配慮しながら学生支援・生活支援の体制を充実させる。

また、各種奨学制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させるとともに、学生の進路選択を支援する体制を充実する。

(6) 教育環境の整備・活用

本校の実践的・創造的技術者の養成を目的とした施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図るとともに、地域社会や産業界の要請に的確に対応するために、施設・設備及び教育環境の維持・更新を計画的に行う。さらに、基盤整備のみならず先端的な設備の充実にも取り組み、この教育環境を本校の学生のみならず、地域産業界に対しても活用の中として提供する。

2 研究に関する目標

教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、研究活動を活性化させる方策を講じる。

本校の持つ知的資源を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取り組みを促進するとともに、その成果の知的財産化に努め、同時に研究の質の向上を目指す。

3 社会との連携や国際交流に関する目標

(1) 社会との連携

地域共同テクノセンターなどの学内施設や設備の有効活用のため、学内の体制を強化すると共に、地域の高等教育機関・生涯学習機関として地域社会や地域内高等教育機関との連携を進める。また、地域社会、産業界との連携を強化するための広報体制を充実させる。

(2) 国際交流

グローバル化に対応するため、本校の教員や学生の国際交流への積極的な取り組みを推進する。また、留学生の受入れについては、国際理解の一環としてとらえ、積極的に受入れの推進を図る。

4 管理運営に関する目標

校長を中心として、本校の効率的・機能的な運営体制を構築する。

事務職員や技術職員の質の向上のため、必要な方策を計画的に実施するとともに人事の活性化を図る。さらに、事務組織を機能的構成にするため組織を見直す。また、事務の電子化、合理化を進め、効率化を図る。

組織・施設の安全管理に関する法令を遵守するとともに、教職員と学生に対する啓発活動を実施し、安全管理を徹底する。

5 その他

(1) 自己収入の増加に関する目標

地域産業界との連携を積極的に推進するとともに、科学研究費補助金、共同研究、受託研究などの各種競争的外部資金の獲得に取り組み、自己収入の増加を図る。また、その推進体制を整備する。

(2) 固定的経費の削減に関する目標

- ①省エネ・コスト意識の徹底化を進め、管理的経費の抑制を図るとともに、施設、備品等の有効活用を推進する。
- ②運用面の改善と平行し、積極的な設備投資を行い、施設・設備面の改善を推進する。

(3) 環境負荷低減に関する目標

地球環境保全のため、教育・研究活動において環境との共生を意識し、環境負荷の低減を推進する。